

令和6年9月12日
独立行政法人日本芸術文化振興会
理事長 長谷川 眞理子 様

国立劇場の建て替え再開場に関する嘆願書

平素より、独立行政法人日本芸術文化振興会様には「人形浄瑠璃文楽並びに一般社団法人人形浄瑠璃文楽座」に格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

国立劇場の閉場より間もなく一年となりますが、入札の不調により建て替え再開場の見通しが全く立っていない状況であると伺っており、我々人形浄瑠璃文楽座座員一同、大変危惧しているところであります。

申し上げるまでもなく、「人形浄瑠璃文楽」の本格的な公演は振興会様主催の公演以外になく、最大数のファンを抱える東京での公演を国立劇場小劇場のような整った環境で長年にわたって実施できないことは、多大なる損失であると案じております。

ご承知のとおり、「人形浄瑠璃文楽」は、「床」や「船底」など特有の舞台機構を必要とする演劇です。しかし、代替劇場では、そのような機構が常設されておりませんので、お客様に満足いただけるお芝居を提供できず、ファンの減少を招くなど、「人形浄瑠璃文楽」の将来に切実な危機感を抱いております。

また、東京での稽古場の不足や振興会様が実施されてきた「通し上演」「復活上演」などの機会が失われている状況は、技芸の伝承の面でも、大きな問題であると認識しております。

平素より格別のお取り計らいをいただいております。また、建て替えについても丁寧なご説明や意見交換の場などを設けていただくなど、感謝の念しかございませんが、現在のような先行き不透明の状況が長く続きますことに、不安を募らせております。

つきましては、国立劇場の建て替え再開場に向けて一日も早い解決が図られることを、人形浄瑠璃文楽座座員一同より、伏してお願い申し上げます。

一般社団法人人形浄瑠璃文楽座
代表理事 桐竹 勘十郎
座員一同